

2025年3月25日開催「ケーススタディから学ぶ、One Click LCAによる建物のCO2算定」ウェビナーQ&A

	ご質問	回答
①	<p>今後省エネ法届け出における省エネ計算ツールのように、J-CATの使用が義務化等されるような動きとなった場合のOne Click LCAの扱いが気になっています。</p>	<p>今後日本において、建物のCO2算定が制度化される際もOne Click LCA等の一定の基準を満たしたツールも認められると認識しております。 現状、国土交通省建築GX・DX推進事業で使用する算定ツールの例として挙げられております。</p>
②	<p>J-CATとの違い、使い分け方法</p>	<p>One Click LCAは①BIMとの連携、②ISO準拠・国際的なデータベース、③クラウドソフトウェアの3点がJ-CATとの主な違いと認識しています。BIMの活用とLCA算定を合わせて体制構築する場合や、LEED認証への活用・海外へのPR、クラウドを活用した算定結果情報のチーム内での共有などを目的に含まれる場合にはOne Click LCAがより適していると考えており、目的に応じて使い分けて頂くことを想定しています。</p>
③	<p>カーボンデザイナ3Dにて延床面積（GFA）が100,000㎡以下であること。とされているのはなぜですか。それ以上の面積のものは算定出来ない、ということでしょうか。</p>	<p>システム設定上入力制限がかかっております。カーボンデザイナ3Dで延床面積（GFA）を100,000㎡以下で設定後、各部位の面積を修正しての算定は可能です。</p>
④	<p>カーボンニュートラルは必須でしょうが、なかなか義務化されないと進まないイメージです。</p>	<p>2024年11月、建物のCO2削減に関する関係省庁連絡会議が立ち上がっており、基本構想や制度化及びスケジュールが示される予定となっております。 既に自主的に取り組まれている企業・自治体もあり、算定義務化に向けた準備がいよいよ本格化すると捉えております。</p>
⑤	<p>カーボンデザイナ3Dは設計において他構造との比較を行う際に大変便利だと感じました。One Click LCA独自の機能なのでしょうか？</p>	<p>カーボンデザイナ3Dをご評価いただきありがとうございます。本機能はOne Click LCA独自の機能となります。</p>